JRPA リカパー通信

Japan Recovered Paper Association Public Relations Magazine

発　行 / 全国製紙原料商工組合連合会
東京都台東区東上野 1-17-4
電　話 / 03-3833-4105
発行人 / 栗原　正雄
編集長 / 石原　純
発行日 / 2023 年 8 月 25 日

No.8

宝永山から見上げた富士山頂

森を育て、森を活かす。

王子エコマテリアル株式会社　〒104-0061 東京都中央区銀座 4-7-5

OVOL
紙、そしてその向こうに。
私たちはビジネスパートナーの皆様の
頼れる水先案内人として、
「紙」と、その先を見据えた明日へ航行してまいります。
日本紙パルプ商事グループ
www.kamipa.co.jp/

私達は、地球環境問題を重要な課題の
ひとつとして位置づけ、次の世代に豊かな
地球を引き継ぐことをめざします。

日商岩井紙パルプ株式会社
本社　〒107-0052 東京都港区赤坂 1-11-30
TEL　(03) 6234 － 6350（代表）
HP　http://www.nipap.co.jp
大阪支社・九州支店

Go Green
正隆集團 CHENG LOONG GROUP
正隆グループ

資源の有効利用を追求する
山發日本株式会社
YAMAHATSU NIHON CO.,LTD.
〒104-0061
東京都中央区銀座3-4-6　正隆銀座ビル7階
TEL:03-5250-0928　FAX:03-5250-0938
http://www.yamahatsu.co.jp

■ 古紙・古着・廃プラ・損紙等の買取・輸出
■ 段ボール原紙の輸出入販売
■ 運送取次・その他輸出入業務代行
■ 工作機械の輸入販売
■ LED照明の輸入販売
■ 古紙用番線の輸入販売

CONTENTS

3 巻頭言
全原連　理事長　栗原　正雄

4 全原連　第 46 回通常総会

10 特集 I
紙リサイクル出前授業への取組
静岡県製紙原料商業組合
広報委員会　石原　純

12 特集 II
全原連渉外広報委員会
委員長退任までの回想
全原連渉外広報委員会
前委員長　須長　利行

20 協賛各社

22 編集後記
静岡県製紙原料商業組合
広報委員会　石原　純

巻頭言

全国製紙原料商工組合連合会
理事長　栗原　正雄

2020年3月に世界保健機関（WHO）が新型コロナウィルス感染症を「パンデミック（世界的大流行）」と宣言してからおよそ3年が経ち、世界で累計6億5千万人以上が感染し、650万人以上の死亡が報告されています。（厚労省2023年1月発表）

その間、世界各国で感染拡大の処方策として、海外への渡航制限、入国制限が行われ、帰国時の水際対策の実施、同時にワクチン開発が進みました。日本では2022年10月から海外渡航の水際対策が緩和され、街中で外国人観光客を見かける機会も少しずつ増えてきています。

大手旅行会社では2023年（1月～12月）の訪日外国人観光客の予測を2210万人と推計しており、2019年ピーク時（3188万人）の7割まで回復すると見込んでいます。

古紙業界はモノの生産と消費により支えられている産業です。まずは経済回復、消費拡大に向けインバウンド需要には大いに期待をしています。

こうした旅行需要に期待を寄せる一方、現状は、今年に入って我が国の経済状況は世界的な経済の落ち込みに伴って、明るさはまだ見えない状況が続いている様に感じております。

古紙の市況はというと、特に段ボール古紙と雑誌古紙の在庫は228社の古紙問屋の5月末在庫量では段ボール古紙が対前年比153%、雑誌古紙は対前年比150%と大幅に増加しています。新聞古紙については仕入量と出荷量が同程度で、在庫率も約20%と適正を保っています。ただ、取扱量は約10%と大幅に減っているため採算は厳しい状態が続いています。

経済の不活発性から古紙回収が落ち込んでいるため、採算性は大きく落ち込んでいます。この様な状況で、仕入競争が余り起きていないことが唯一の救いとなっております。まだしばらくこの様な経済状況が続くと思われるので仕入競争の再発だけは厳に慎んで欲しいと思います。

より良い古紙の品質を心掛けて、少しでも多くの古紙がリサイクルされる様に全原連の会員の皆様と共に頑張って参りたいと思います。

（2023年6月22日記）

全原連　第４６回通常総会を開催

３年ぶりの懇親会で業界の安定持続を願う

全国製紙原料商工組合連合会（以下､全原連）は5月25日、岡山市のANAクラウンプラザホテルで第46回通常総会を開催した。平常通りの懇親会を伴う総会は3年ぶりである。議事のうち役員補選については、5月11日付けで役員辞任を申し出た矢倉義弘（近畿商組）副理事長の後任者選定を行い選考の結果、塩瀬宣行（近畿商組、大和紙料㈱代表取締役会長）氏が役員として選任され副理事長に就任した。

総会の司会進行は中国地区製紙原料直納商工組合の青年部・田中 期(とし)氏が務めた。開会の辞は同組合理事長の小六信和氏が以下の様に述べた。「ようこそ晴れの国、岡山へ全国から多数お越し頂きありがとうございます。やっと今年懇親会付き総会をやれて本当に喜んでいます。前回は広島県呉市で総会を行いましたがあれから10数年が経ち、社会も業界も大分変化して、日本や世界中でSDGsが強く叫ばれるようになってきました。我々古紙業界は大昔から古紙を回収・リサイクルしてごみ減量や環境の向上に携わってきた訳ですが、いま世界の大きな波がSDGsとしてやって来ています。我々古紙業界もこのSDGsの波に乗って一層頑張らなければいけない。そして私は最近、個人的には「役に立ってナンボ」と強く思っています。SDGsと言えば難しいですが、結局は社会の為とか人の為、お客様のため、社員さんやその家族のためです。ここ数年私の個人的なキャッチコピーは『紙はゴミじゃない』を右手にしつつ『役に立ってナンボ』とずっと思って仕事をし

〔総会挨拶〕小六信和氏

〔総会司会〕田中期　氏

て来ました。これからも古紙の回収とは『メシを喰う為だけでなく、何か社会や人様、お客様や社員さんの役に立つ仕事』としてやりたいと思います。

そこで栗原理事長さんには我々業界がどうやって役に立っていくか、その舵取り役をずっとお願いしているわけですが、今日この総会が、またその今後、我々古紙業界がいかに人様や世間や社会やお客様や社員さんの役に立つか、『役に立ってナンボ』の基礎固めのワンステップになれたら嬉しいと思います」

〔総会挨拶〕栗原正雄理事長

続いて理事長挨拶では栗原正雄理事長が以下の様に述べた。「全原連の総会も回を重ねて46回となりました。中国地区での前回には私も参加し大分年月が経ちましたが、今年も天候に恵まれてこのように華やかに開催されることを本当に嬉しく思います。設営その他でお世話になりました中国地区の組合や青年部の皆様、大変ありがとうございました。

私どもの古紙業界の昨年をふり返ると、このところ暫く穏やかな波が続き、この状況が今年も続くと期待しています。ただ残念ながら経済は若干の伸びで、古紙も段ボールだけが1%ほど伸びましたが、その他は対前年同月比で若干マイナスでありトータルでは－0.1%と古紙需要量も微減が続いています。この2～3年間こうした状況が続いていますが、色々な業界を見回せば私どもは安定的に推移している業界のひとつに数えられると思います。

一方で紙の需要は段ボールではまだ多少プラスですが新聞の比率がどんどん下がり、今年も若干マイナスの予想です。総体の数字が減っているため紙全体に与える影響も相応の量だと思われます。したがって恐らく今年は、プラスにはならないがゼロコンマ一寸のマイナスで、前年と殆ど変わらない状況になると考えています。

国際マーケットで見ると、日本の古紙はまだ回収量が国内の消費量を上回っており、その差の量はどうしても海外に出さなければなりませんが、その国際マーケットもこのところ特別高い価格ではないが安定しています。新聞古紙は30円近い価格で維持され、輸出面でも昨年と変わらぬ状況が続くのではと思っています。こうした状況では業界内で仕入れ過当競争が起きると懸念していましたが、その仕入れ状況も安定推移しています。

そうした意味で安定した状況が今年も続くと思っており、皆さんと共に経営が安全運転で出来るよう、手を繋いで頑張っていければと思っています」

続いて司会者から出席状況が報告され、出席15組合、うち本人出席13組合と委任状出席2組合で総会員組合数の半数以上が出席して適法に成立していることを報告した。

〔議長〕磯野晶則氏

議長は司会者一任により磯野晶則氏（中国商組）が選出され議事が進行。第1号議案の〔令和4年度事業報告承認の件〕は三村浩一氏（中国商組）が、〔令和4年度決算関係書類承認の件〕では齋藤米蔵氏（総務財務委員会）が上程。坂内大介氏（東京協組）が〔監査報告〕を行い、

第３号議案の〔令和５年度事業計画案承認の件〕は再び三村氏が、〔令和５年度収支予算案承認の件〕では同様に齋藤氏が上程。第３号議案〔令和５年度経費の賦課及び徴収方法決定の件〕、第４号議案〔役員報酬決定の件〕は議長が上程、いずれの議案も承認を得た。

三村浩一氏

齋藤米蔵氏

〔監査報告〕坂内大介氏

第５号議案「役員補選案承認の件」については、５月11日付けで役員辞任を申し出た矢倉義弘（近畿商組）副理事長の後任者選定を行うもので、定款25条４項に則り指名推薦によるものと議決され、石川喜一朗氏（中部商組）を選考委員長に、大久保信隆氏（関東商組）、岩渕慶太氏（九州商組）、上田晴健氏（東京都協組）の４名の副理事長が選考委員として提案・議決され選考の結果、塩瀬宣行氏（近畿商組、大和紙料㈱代表取締役会長）を選任した事が石川委員長から報告され、総会出席者総員の同意により来年５月の通常総会まで理事に選任された。

〔選考報告〕石川喜一朗氏

〔新理事挨拶〕塩瀬宣行氏

〔閉会の辞〕本田誠治氏

塩瀬氏は「先日、近畿商組の理事長として推薦、就任させて頂きました。近畿商組の総会まで一寸都合があり出席できませんでしたが、今

回初めて全原連の総会でという事で、デビューをさせて頂きました。任期の間しっかり頑張りますが、どうぞよろしくお願いいたします」と挨拶した。

以上をもって全議案は滞り無く終了し、閉会の辞は本田誠治氏（中国商組）が述べた。

続いて臨時の理事会が開催され、理事に選出された塩瀬宣行氏が副理事長に就任した。

＊　＊　＊

続いて夕方5時から、会場を同ホテル19階の「宙」に移して懇親会が開催された。懇親会の司会は岩本貴紀氏（中国商組）が務め、同組合理事長の小六信和氏が歓迎挨拶をした。「今日は本当に岡山にようこそお越し下さいました。今回特別なアトラクションはありませんが、何年も懇親会が出来なかったため、今日はぜひ皆様方が業界の事やら色々な日頃の悩み事相談など、色々懇親を兼ねて話をして頂けたらなあと思います。料理長には無理を言って瀬戸内海産や岡山産のものをお願いしましたから楽しんで下さい」

〔懇親会司会〕岩本貴紀氏

続いて栗原理事長が挨拶に立った。「本日の総会ご苦労様でした。毎度の事ながらお陰様で提出した議案、全て満場一致で成立させて頂いてありがとうございます。総会も盛大に開催され和やかなうちに議了をして、こうしてまた皆さんとご一緒に夕食を頂ける事を嬉しく思います。古紙の状況はこの2年ほどずっとなだらかな推移で、沢山は儲からないものの会社を運営していくには充分だと思っています。

今年もひき続きこうした状況が続き来年に至れば大変ありがたいと感じています。今年も皆さんと力を合わせ、古紙業界が円滑に営業できるように皆さんと共に頑張ってまいりたいと思います」

〔懇親祝辞代読〕経済省素材産業課 藤畑直人係長

来賓を代表して経済産業省　製造産業局　素材産業課　係長の藤畑直人氏が、同課長の吉村一元氏からの祝辞を代読した。

「本日公務により出席叶いませんでしたが全原連総会の懇親会開催にあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、日々古紙の確保にご貢献頂いている事を改めて感謝を申し上げます。古紙は紙産業にとって欠かせない原料です。また資源循環の観点からも古紙の回収システムは確立されており、資源循環社会の形成において古紙は周りを牽引していると認識しています。

足元の古紙の状況については紙の需要減少が続いて古紙の発生量が減少しており、印刷・情報用紙や家庭紙に使用する古紙を中心に需給がタイトな傾向にあると認識しています。昨年は古紙の輸出価格は円安の影響やタイトな需給の影響により特に新聞古紙、雑誌古紙で大きく上昇しましたが、そんな中でも古紙業界の皆様が国内製紙メーカーへの供給を第一にして下さった事により、海外への古紙流出は限定的になってきています。これについて感謝申し上げると共に、ひき続き古紙の国内循環についてご協力

頂きますよう、よろしくお願いいたします」

続いて本日の来賓紹介が司会の岩本氏から行われ、経産省の藤畑係長、(公財)古紙再生促進センター川上正智専務理事、櫻井孝史常務理事、日本再生資源事業協同組合連合会（日資連）室山敏彦副会長、同　草間貴明事務局長、全国製紙原料厚生年金基金の武井五郎常務理事、りそな銀行信託年金業務部の沖 成一郎部長、同　津田直巳担当マネージャー、およびWorkVisionの高長俊一事業部長、今井克也部長、遞(とら)田和紀氏、柿崎貴信氏が紹介された。

〔花束贈呈〕矢倉義弘氏

〔懇親会挨拶〕矢倉義弘氏

続いて副理事長を退任する矢倉義弘氏へ花束が贈呈され、矢倉氏が挨拶した。

「ありがとうございました。生まれてこのかた80余年ですが花束を貰ったのは2回目で、1回目は去年、大阪で行われた総会のこの席で国家褒章を頂いた祝賀のために頂いた時です。私も来年3月には米寿、88歳となりますが割と健康で元気に過ごしており、まだ毎日会社に出ています。またこうやって皆さんと懇親会で話が出来て、非常にありがとうございます。

近畿商組の理事長を長年やってきましたが、当社で会長をしている塩瀬宣行が、先日の近畿商組の総会で皆さんの賛同を得て、理事長を継ぐ事になりましたので、私同様に色々お力添えを頂きますよう宜しくお願い申し上げます」

〔乾杯〕川上正智専務理事

乾杯発声は、古紙再生促進センターの川上正智専務理事が行い、下記の様に述べた。

「日頃、古紙センターの運営に際し、本日お集りの皆様のご協力・ご支援を頂き感謝しております。昨日は私どもの理事会において昨年度の決算ならびに事業報告をさせて頂き、ご承認を頂いてありがとうございました。本日、私が長谷川理事長の代理でお邪魔しておりますが、理事長からも『くれぐれもよろしく』という事でございます。それでは今年もますますの皆様の事業のご発展・ご繁栄を祈念して声高らかに乾杯したいと思います」

乾杯のご発声ののち、歓談に入った。歓談の中盤で、新たに副理事長に就任した塩瀬宣行氏が改めて挨拶に立ち、以下の様に述べた。

「少しですが言いたい事が3つあります。一つ目は、古紙屋は元々変な仕事だとされて隠れて仕事をしてきましたが、最近になって突然、表舞台へと上がってきたという事です。SDGs、リサイクルの山だということで僕らを見る目が変わってきた。この時、次に僕らがどうしていけば良いかと言えば、まずお金儲けはする。しなければ最後には潰れてしまいますし、世界の

人々が求めているリサイクルも潰す結果になります。僕らが仕事をし、かつ企業として存続していくこと自体が世の中に貢献していく事だという事です。僕らの子どもがちゃんとこの仕事を続けていけるという、お父さんの良い所を見せなければいけない。お父さんがしっかりといい生活をしていること、それを子供に見せる事で子どもが後を継いでゆく。そういう風にしなければいけないと思います。

二つ目として、日本に技能実習生という制度がありますが、日本の少ない労働者を補填するために一寸変えていきたい。建築現場は違う風にしましたが、僕らはそれよりもっと凄い仕事をしていると思います。手前味噌ですが当社では従業員の仕事をカテゴリー別に50種ほどに分類し、1人の社員がその50種の仕事を覚えれば一人前の古紙処理業者になれる、という風なことをやっています。外国の人にもこうした仕事や考え方を母国へ持って帰り、そこでリサイクルについて啓蒙してもらってはどうかと。我々が出来る事はそれ位ではないかと思いますが、関係省庁の方にも来て見て頂き、我々業界にももう少し門戸を開いてもらいたいと思います。

三つ目として、僕らは古紙を何で輸出するのでしょうか。こんなに単価の安いものを船で運び出すという無駄な事を僕らはやっています。ただこれをやらないと古紙の余剰で僕らの業界が倒れる。余ったものを海外へ出して、国内でバランスを取っている。いつも新聞に書かれますが、段ボール原紙の値段が上がらないのは何故かというと「古紙が下がったから」。古紙は関係ないぞとも思いますが、僕らも日本国内の、古紙の需給バランスを取るように取引していく事が僕らの重要な仕事ではないかと思います。けれども本当に思うのは、みんなが幸せになるために、国内で発生したものは国内のメーカーで使って頂き、余ったものだけを輸出するようにしていければと思っています」

こののち各委員長などが挨拶した。順番に経営革新委員長の梶野隆史氏、需給委員長の藤川達郎氏、IT推進委員長の近藤國宏氏、WorkVision　の高長氏、渉外広報委員長の斎藤大介氏、厚生年金基金　武井氏、安全防災特任委員長の齋藤米蔵氏が、それぞれの仕事や近況などを報告した。

〔中締め〕八田憲明氏

最後に、来年度の総会担当である四国製紙原料商工組合の八田憲明理事長が中締めの挨拶に立ち、以下の様に述べた。

「次年度は瀬戸内海の対岸、香川県高松市で令和6年5月23日、第47回通常総会ならびに懇親会を開催させて頂きます。昭和30年代40年代の事を覚えている方には分かると思いますが、その当時修学旅行の京都・奈良に次ぐ行先は香川県でした。関西からは中学生、関東からは高校から修学旅行生が沢山来ていました。今はアメリカやヨーロッパから世界で行きたい10カ所の中に、日本の中で四国・香川が選ばれています。ちなみに例を挙げますと、父母ケ浜（ちちぶがはま）、これは南米ボリビアのウユニ塩湖に倣い『日本のウユニ塩湖』と呼ばれています。…また『天空の鳥居』と呼ばれる高屋神社もあります。もちろん“うどん・そば”も元気でございますので、ぜひ来年はうどん県・高松のほうへおいでいただきたいと思います」

矢倉前副理事長は本年6月不慮の事故によりご逝去されました
生前のご功績を偲び謹んで哀悼の意を表します

特集Ⅰ

静岡県製紙原料商業組合としての ＳＤＧｓ活動

紙リサイクル出前授業への取組

静岡県製紙原料商業組合
広報委員会　石原　純

静岡商組では2014年10月より、古紙再生促進センター静岡地区委員会と連携して、主に小学4年生を対象に紙リサイクル出前授業を行ってまいりました。6月に発行された全原連のSDGsリーフレットの目標17番「パートナーシップ」に当たる活動です。

当初は古紙再生促進センターの静岡地区事務局と組合加盟の古紙問屋（古紙リサイクルアドバイザー）が手探りで始めた活動ですが、2018年からは静岡地区委員会の製紙メーカー様が、更に授業の様子を取材していた「日刊紙業通信社」様も講師として参加していただくようになりました。これにより、富士市内の小学校2校からスタートした出前授業は、富士宮市や沼津市、そして伊東市にまで広がり、毎年10校以上の学校で実施するようになりました。

今年度は5月末時点で、小学校14校で出前授業を行う計画です。製紙メーカー様と『日刊紙業通信社』様の参加協力により、授業中に出る児童からの様々な疑問・質問に対して、古紙問屋の目線だけでなくそれぞれの立場からより的確に回答できる体制となりました。

2020年に新型コロナの流行が始まってからは、講師と児童、そして児童間の空間を確保するために体育館を使用したり、手漉きはがきづくり体験では児童が密にならないように人数を減らして回数を増やす工夫をしたり、2つの教室を使用して同時進行で行ったりと、準備する備品や授業に費やす時間が増えてしまいました。

しかし、その都度学校側と協議をしながら、とりまく環境の変化に柔軟に対応した授業形態に変更してきました。新型コロナによる行動制限が無くなったため、今後更に多くの学校・児童に紙リサイクルの重要性と大切さを伝えていきたいと考えています。

その他の特色として、令和2年度から出前授業の際に子どもたちの家庭の新聞購読状況を調査して統計を取っています。参考資料として発表させていただきます。

令和2年度　購読率37%
令和3年度　購読率38%
令和4年度　購読率35%

マンションや新興住宅地などの若い親と子どもだけの世帯が多い地域は上記の平均を下回る数値が出ており、祖父母と同居する世帯が多い地域では平均を上回るような傾向です。

静岡商組は今後も学校関係者と連携しつつ、古紙再生促進センター静岡地区委員会の協力も得ながらSDGsを踏まえた紙リサイクル出前授業の活動を広げていきます。

教室で授業を行う菊池理事長

静岡地区委員会の製紙メーカー様

静岡地区委員会の製紙メーカー様

紙漉き体験講師の日刊紙業通信社様

体育館で授業を行う古紙センター静岡事務局長橋さん

紙漉き体験講師の静岡商組事務局長嶋さん

体育館で授業を行う佐野専務理事

体育館を使用した授業

紙漉き体験の様子

特集Ⅱ

2007年5月刊行の全原連30周年記念誌。

全原連渉外広報委員会 委員長退任までの回想

全原連渉外広報委員会
前委員長　須長　利行

「グローバルサウス」との呼び方が定着してきました。1991年「東側世界」の盟主・ソ連邦が崩壊するまでは、東西の分断が世界経済の構図でした。いまや、中国の急速な台頭に寄り添う経済上の傘下、影響下の発展途上国が連携を強め、「サウス」の勢力が成長してきました。対する「ノース」はアメリカ・欧州の先進工業国で民主主義制度のG7をメインとしたいわゆる「西側世界」の後継国家です。

2022年2月24日のプーチン・ロシアによるウクライナ戦争の開始は、この世界のサウスとノースを分断してしまいました。本稿は7月4日、三重県桑名市で服部茂樹副委員長の会場設営のお骨折りにより、対面で開催された全原連渉外広委員会で校正会議をしました。

8月25日発行日に至る数十日間の政治変化は見当もつかないですが、南アジアの農業に干ばつや水害をもたらすスーパーエルニーニョ現象が観測されると同じように、政治が経済の下部構造で観測されるならば、今年はあと4か月の年末までに著しい好転や好景気の到来は期待できそうにありません。気象災害が追い打ちになりそうです。

G7とその協力諸国、ロシアへの経済制裁に加わっている「グローバルノース」の世界人口は15%で、インド・中国を主力に世界人口の85%はロシアに制裁を加えるどころか、暗黙で支持をし「ノース」の需要減の代りに、エネルギーやダイヤモンドを筆頭に鉱物資源などの購入を過去の数倍、数十倍も取引しています。半導体なども制裁とは逆にロシアに様々な手法で迂回輸出して助けています。

主要な資源や、すべての生産、生活に不可欠なエネルギー源が2022年2月24日以降に世界中で、そのバランスが壊れてしまいました。そこには、もちろん製紙産業の資源が含まれています。その稼働を支える石油・石炭・天然ガスが需給バランスを崩されて、コストが想定外の上昇をしてしまい、CO2対策が輪をかけて企業の存続を危機的にしてしまいました。

しかし「ノース」の先進国にはESG投資の観点やSDGsも重なり、ますます負担が増えていきます。戦争行為はSDGs目標達成行為の真逆でしかありません。

世界のマスコミはそれぞれの国で論調が違いますが、国連加盟国であれば、たとえ戦争状態であっても、国際法の違反は許されません。領土の主権を武力侵攻で奪う行為は禁じられています。常任理事国であればなおさらです。

製紙原料商の会社に飛び込む

私が学卒後入った出版社を辞めて、義父の営むチリ紙交換と呼ばれた古紙の回収事業の会社に入社したのは1973年（昭和48年）の11月でした。50年前となります。1955年～1973年の高度成長期当時の環境問題は、公害問題でしかなかった頃です。

私が生まれる1年前の1946年から1950年（昭

和 21 年～ 25 年）は堺屋太一が著書で名付けた団塊の世代です。荒廃した終戦後に復員した兵士たちが家庭を持って、多数の子供が生まれたので「戦後ベビーブーム世代」とも呼ばれました。私が育った港区など都内では小学校の教室が 1 クラス 60 人以上で、1 学年が 6 クラスありました。1 ～ 6 学年全体で 1000 名以上の学校はザラでした。大量生産・大量消費の戦後の成長社会が美徳となり、進学も入社も激戦でした。

団塊世代は、どこの個人宅にも新聞が届いていて、どこの家庭にもたくさん子供がいて、学校で必要な本以外に漫画本や少年誌や「小学○年生」が読まれていましたし、本屋さんが配達もしてくれていました。家の中は親子の紙類でいっぱいでした。

「ご家庭内でご不要になりました、古新聞・古雑誌・衣類のボロなどございましたらお手を上げてお知らせください。こちらからすぐにお伺いいたします。」というセリフを 3 分間のエンドレスカセットテープにダビングして、スピーカーから大音量で町中に流しました。

蚊取り線香の様に市内をゆっくりグルグル回れば古紙が集まるという極意を教わりました。音声を聞かせて家の人が古紙の有無に反応するまでの間合いが大事で、お客さんを掴むコツでした。日中は家の年寄りが、古紙と一緒に飲み物を出してくれたりしました。

1 日で軽トラック 5 ～ 600 キロ（定量は 350 キロ）、1 トン車なら倍以上は積んで帰る名人の「チリ交」がトラックを貸してくれる各社にたくさん出入りしていました。スポーツ新聞の求人欄でチリ交募集が毎日あり、住まいは無くても良かったですが、免許証だけは必須でした。

自分のトラックを持ったオーナーは成功者で眩しい存在でした。自由に古紙を卸す先を選べる自立したプロフェッショナルだからです。買い子となる借りたトラックのチリ交も、貸してくれた親方の縛りと指導でそれなりに優雅な収入が稼げていました。住所不定のチリ交には、雑居アパートも貸してくれました。

1970 年（昭和 45 年）に始まったとされるチリ交回収は、1984 年頃価格下落が止まらず終焉しました。代わりに戦後からの廃品回収が、古紙回収の中心になり集団回収に成長します。

渉外広報委員会との出会い

1974 年 (昭和 49 年) の 3 月、通産省の管轄で財団法人・古紙再生促進センターが設立されました。今年 60 周年記念総会を迎えた「関東商組」の前身の「東京製紙原料直納商業組合」が 1963 年 7 月に設立され、初代理事長になった山室仁作氏が製紙業界と古紙業界の橋渡し役として、1974 年の古紙センターの設立に貢献されました。

関東商組は栗原三郎氏が理事長になっていて、山室さんは降りられて副理事長でした。関東商組の設立者が大久保信之副理事長らと古紙センター発足に向けて、関係者の間を奔走したとお聞きしています(関東商組 50 周年記念誌)。

1977 年(昭和 52 年)12 月 1 日、東京銀座で「全国製紙原料商工組合連合会」が設立されました。神奈川県の地方都市で古紙卸売業を義父の下で肉体労働していた私にとって、関東商組は雲の上であり、新しい全原連は国連みたいな遠い世界の団体発足でした。どちらかというと西の静岡商組の方に親近感と実利が伴っていました。

古紙の納入は富士市内のメーカーが近い神奈川県。今でも富士に在所する製紙工場が一番近くて安心感が得られています。いつでも古紙の消費や在庫状況を見に行け、現場で市況を教えて頂けるし、配車も問屋各社が責任を持ちました。お取引は、工場到着価格が基準でした。

製紙会社の物流費も古紙問屋の物流費も燃料代や人件費は上昇しています。2024 年の労働時間制限問題でドライバー不足の予測人数も想定を超えそうです。

製品価格と原料古紙の価格確保は今後の両業界の存続にかかわるでしょう。

関東商組で機関誌が発行されたのは、1982年（昭和57年）の8月でした。山室博久第5代理事長の時に広報「かんとう」が創刊されました。現在の関東商組の広報誌「KANTOU」の表紙にもさりげなく残されていますが、平仮名は、山室博久理事長の手書きの墨書です。

広報誌「かんとう」はホームページで、閲覧できます。全原連渉外広報委員会の委員長は、組織運営の利便性から、関東商組の渉外広報委員長が兼務してきました。

私が関東商組の渉外広報委員長に就いたのは2006年（平成18年）の5月の総会からです。この年、第10代の理事長に故深田和利氏が選ばれ、彼の発案でホームページを管理する意味で、IT活用部会が生まれ、関東商組は「渉外広報・IT委員会」の名称となりました。私が副理事長兼で担当委員長になりました。第11代の大久保信隆事長にもご指名を頂き6期12年続けて委員長を務めました。2018年から、交代して現在の斎藤大介委員長になり、私は委員のままで在籍して「かんとう」の編集を補助しています。

全原連渉外広報委員長は、関東商組の藤川達郎氏でした。深田理事長の組織改革で需給委員会委員長を担当するため、2011年からは関東商組で後任の私が全原連の渉外広報委員会を引き継ぎました。2021年の総会で退任するまで、5期10年間、全国の広報の仲間の皆様と渉外広報委員会活動をしてまいりました。

各地の直納組合や製紙原料組合を全原連で包括して一つの活動にまとめていくためは運営の組織性が必要です。お取引する納入先には製紙連合会という世界でも屈指の組織が運営されています。定期的に広報紙を発行している組合は、関東商組、東京協組、中部商組、九州商組（紙藍会）などで組合内のコミュニケーション紙が発行されています。組合ホームページも各地各様に発信しています。

2016年5月24日の近畿商組50周年記念祝賀会の思い出。矢倉義弘前理事長が引退され、ゴルフ余生を楽しむ矢先のご逝去に悲しみが溢れます。全原連の50周年を楽しみにしておられました。安らかにお眠りください。

全原連の情報を発信する

私が担当した発行物も色々とありました。J-Brandの規格をPRするリーフレットの配布と徹底、全原連自己紹介のリーフレット作成（英語と中国語の翻訳ペーパー付き）、そして今年は待ちに待った全原連のSDGsリーフレット作成が新委員長のもとで出来上がりました。渉外広報委員会の地味な仕事は続いています。

J-Brandのリーフレット作成では、中国輸出が旺盛だった背景があり、日本品質と海外品質の違いに悩みました。組合執行部の判断で雑誌古紙規格は対象外としました。一様にくくれない多種多様な紙類が雑誌にはあり、新聞古紙と段ボール古紙の様な安定した規格にはなりません。まさに混合している名柄＝MIXです。

過剰品質で手足を縛ると、問屋や回収現場で分別の手間や経費がさらに負担となってしまいます。英語表記にも慎重論がありました。

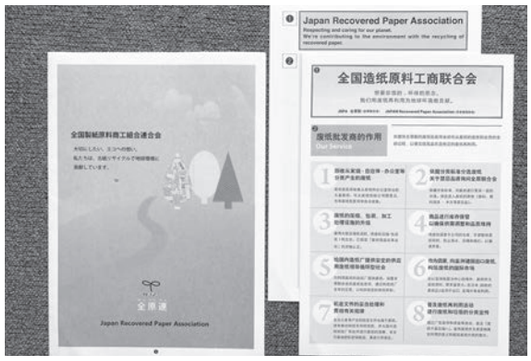
欧米のあまりにもアバウトな古紙や廃棄プラスチックの入荷で限界を覚えた中国政府が2017年に「ナショナルソード（国門利剣）」を

打ち出し、2020年末でそれらの輸入を禁止すると言い出しました。2016年11月にアムステルダムの国際映画祭で初演されたドキュメンタリー映画の「プラスチック・チャイナ」（グーグルで検索し、国際環境経済研究所と加えますと動画と解説が出ています。）が政府にショックを与えたほど、ずさんな資源物管理だったためです。

翌2018年には、「ブルースカイ（藍天）2018」が採択され「固体廃棄物輸入禁止および固体廃棄物管理システムの管理の促進」を発表し、密輸防止の取り締まりの観点から税関が対応しました。

全原連紹介は、渉外広報委員会の苦心の制作でした。2017年の8月に出来上がり、国内の自治体職員や発生元の企業や協力団体にたくさんの全原連リーフレットを配布してきました。

海外に視察に出かけるときには、中国語や英語の翻訳シートを挟んで組合の自己紹介のために、お渡ししました。私自身随分役に立ったと思う機会が多々ありました。



折りたたみで６ページの全原連紹介リーフレット。A4両面の中国語か英語の翻訳ペーパーを挟める。2017年８月に発行し、現在でも利用されています。

2017年4月の中国政府の固体廃棄物輸入禁止の発表があった際には、「そりゃ無理だ。再生紙に古紙原料が無ければ生産が出来ないことがすぐにでもわかる。そのうち融通が効いてくる。」との見立てが、結果は大いに違ってしまいました。背景は、後日、具体的に表れていきました。2020年4月全人代で正式に決定し、6月以降ライセンスの申請が受理されなくなりました。2021年1月以降、廃プラや古紙は香港以外、海外からの輸入はゼロになりました。

共産党政府方針の「一帯一路」の経済圏拡大政策と並行した中国政府が提唱し2015年に発足させたAIIB（アジアインフラ投資銀行）を活用した国家的な民間への支援による投資拡充が加速しました。米国の製紙工場の買収や、南アジアへの製紙産業投資の充実、古紙パルプ（段原紙の形をした古紙）の生産委託や海外での自社系列生産など、古紙の輸入に頼らない板紙生産を2年間で可能にしてしまいました。むしろ生産は強化され、中国製紙産業の敵は需要減だけに見えるほどです。

日中古紙セミナーの思い出

2012年10月の第1回の日中古紙セミナーが東京の憲政会館で開かれました。基調講演は対外貿易大学の夏占友（シャ・ザンユウ）先生。中国造紙協会の牛慶民（ニュ・チンミン）副会長たちによる中国からの古紙事業の情報交流をしたいという呼びかけでした。講演後に「日本の行政回収の様なものがありますか？」と私が質問しましたら、牛さんが、「そのような仕組みはないですよ、日本の方が社会主義ですね。」と応じられたので会場は大笑いでした。2011年に全原連渉外広報委員長になった翌年でしたが、初回に際して問屋業界からの初質問でした。

第2回は中国の杭州で開催され、夏先生や牛副会長らがリードし、栗原正雄理事長が「日本の古紙品質（J-Brand）」と題して講演をしました。交互に開催地を用意する交流が継続し、来年いっぱいで中国が古紙を買わなくなるとわかっていた2019年の11月20日、江蘇省無錫市のホテルで、200名超の参加による第8回中日古紙セミナーが開かれました。栗原理事長の御指名で、私が訪中して講師の一人になることになり、輸入禁止の政策批判はまずいだろうし、

悩んでしまいました。

「日本の古紙事情と中国の古紙輸入政策による影響・対策」との題目で30分講演しました。やはりこの第8回が最後の日中の古紙の交流会になりました。2020年末で古紙の輸入は本当に終わりになったことで、これまでの古紙センターや関係者らの積み重ねがストップした最終の開催でした。

5人の講師の最初の話し手でしたので緊張を和らげましょうと、話の初めに「全原連渉外広報委員長の須長です」と挨拶していきなり「無錫旅情」のカラオケソングのイントロだけアカペラで歌いました。日本で無錫の街はこの歌で愛されています、と。話の最後には2020年、古紙輸入禁止を実地すべきか第9回のセミナーを日本で開きましょうと結びました。

全原連の品質への取り組みを話し、日本語では、回収した紙類を「古紙」と名付けており、英語では「Recovered Paper」と表現していて「Waste Paper」じゃない。お国では「廃紙」と書いて“フェイツー”と呼んでいる。自分からWasteと言っている。古紙は製紙原料であり「ゴミ」じゃない。呼び方が悪い、輸入禁止品には該当しないと説明しました。

レンゴーの製紙部の部長代理の山本浩平氏による「古紙のリサイクル回数増加に伴う繊維強度低下への対応」の講演では、中国を代表するナインドラゴン社はじめ多くの製紙関係者がその高い技術力のレベルに聞き入っていた様子でした。

印象深い無錫でのセミナーの日本側の3人目は、全原連中部商組の石川喜一朗理事長で、「名古屋市のごみ分別排出とリサイクル」と題する結びの講演を致しました。中国人の心構えに「分ければ資源、混ぜればゴミ」であると話し、「紙リサイクルSDGs」を提唱し、「つくる責任」「つかう責任」を説いたのは、今と違ってその当時の環境意識ではとても新鮮でした。

講演会の後の質疑応答が済んで、造紙協会のトップになられた牛会長が、「良い指摘があった。紙はゴミじゃない、古紙は資源だ！我々も言い方を変えよう。」と締めくくってくれました。

造紙協会長に持ち上げられて、私はもう一度「廃紙」はwaste paper、「古紙」は使用済みのold paperをrecoverし、「ゴミ」ではない、古紙センターと全原連は45年間努力して問屋と製紙の双方が製紙原料のために子供たちに対しても出前教室を開いて説明している。法律が禁止しているゴミ廃棄物ではない。2020年に第9回を東京で、そして記念の古紙セミナーの第10回を2021年中国で、新しい繁栄のために開きましょう（会場から大きな拍手）と最後につい、言ってしまいました(笑)。

最後の日中古紙セミナーが休止して早くも4年が経ちました。輸入禁止が決まってから、2年半が過ぎました。世界中のサプライチェーン

第8回日中古紙セミナーの主催中国側と日本側参加者。中国造紙協会・中国再生資源回収利用協会（公財）古紙センター　中国側180名　日本側23名　中央の渡代表理事の左側が九龍の張社長の妹・張秀紅さん、無錫市の古紙問屋・黄副董事長、牛会長。大久保理事長の後が夏占友先生。

は、がらりと変化しました。

最後の第８回日中古紙セミナーで質問に応じる日本側の３人の講師。左が筆者、中央がレンゴー㈱尼崎工場製紙部部長代理・山本浩平氏、右が中部製紙原料商工組合・石川喜一朗理事長

歴史ある記念誌制作の担当に恵まれる

今、手元に「全国製紙原料商工組合連合会三十年史」が置いてあります。奥付には2007年5月25日発行とあります。藤川達郎委員長の編集後記には、我々記念誌編集部が小池茂男副編集長とインタビューしに伺った大久保信之会長の名言の思い出と共に、「本来であれば設立当初の写真など、時代がわかるような写真をもっと掲載したかった」と記されています。全原連設立50周年の2027年迄には4年あります。過去の記憶や資料のデータバンクを用意しましょう。編集長の実務的な思いは同じですので、ぜひとも全原連傘下組合委員の皆様の思い出写真などを探しておいて、その節はお貸しください。（タイトル横の「30年史」の表紙は、古紙の回収量・消費量・輸出量の伸びを棒グラフにして斜めに並べて、古紙の歴史を光と影が羽ばたく姿にデザインしました。）

今年の関東商組の60周年総会は盛大でした。合わせて60周年記念誌として「かんとう」の増刊号が発行されました。引き続き2024年、来年は公益財団法人・古紙再生促進センターの設立50周年です。

私が担当した「関東製紙原料直納商工組合創立50周年記念誌」のサブタイトルは「古紙リサイクル50年のあゆみ」ですが大久保信隆理事長が巻頭に示した「温故知新　古紙リサイクル50年」が刊行の目的のことば、でした。288ページもある分厚い製本に加え、付録DVDを添付した別冊の「広報誌『かんとう』から見た50年」で過去の創刊号以来のすべての30年分のバックナンバーを掲載しました。広報委員長の先輩で副理事長の瀧本義継氏がそれらの年次記録を書いてくださいました。

静岡商組の記念誌や近畿商組の記念誌など、発行に大変な時間をかけた歴史を綴るこうした記録図書はデジタルでは不便です。どうしても探しにくい過去の出来事を年次で検索でき、見やすい紙の本がいかに役立つものか身に染みて理解できました。

全原連30周年記念誌の編集室メンバー（藤川委員長）「記念行事実行委員会」の名で2007年5月25日に発行。制作協力の古紙ジャーナル本願貴浩社長（左）と私。

30周年記念誌制作のため全原連元理事長の大久保信之会長を取材訪問。成長期の古紙業界を振り返り「長生きした者が勝ちだよ。」と至高の名言。制作に半年没頭していた編集室メンバーの藤川さん、小池さん、須長が圧倒された瞬間です。

2007年（平成19年）5月25日に全原連第30回総会・祝賀会が開催されて、全国の功績ある理事長経験者を代表されて大久保信之第4代理事長が、お元気に祝辞のご挨拶に立たれた。

歴史に残る余剰古紙対策「古紙問屋の総決起大会」として、1997年4月21日「古紙利用再生促進決起大会」を開催。私は、全国紙と関東キー局に取材を働きかけ、一気に社会問題へ。全原連は服部春見理事長、関東商組は畑　俊一理事長でした。

「関東商組創立50周年記念誌」を2013年5月6日に発行。288ページの大作。表紙は関東地区の地図。紙業タイムス社高橋彰司社長が年鑑の編集など制作などに尽力。「業界大先輩との座談会、各委員会活動、紙パルプ業界50年と社会のあゆみ（年表）の内容も素晴らしいが、組合員紹介の中で創業者の顔写真掲載や広報誌かんとうをすべて収録したDVDの企画力には正直、『参りました』と言わざるを得ない。」（2013.6.6日刊紙業通信1面記事）

「リカパー通信」との出会い

全原連を横につなげたい、共通の話題の広場を組合員各社の手元に届けたい、との栗原正雄理事長の発案が、2019年8月に発行された「JRPA通信」です。

Japan Recovered Paper Association Public Relations Magazine が原題です。才能溢れる事務局の制作でNo.1が発行されました。横書きの斬新な会報です。全原連総会や当時の古紙センター専務の岡村光二氏の「日本の古紙リサイクルシステム維持に向けて（中国古紙輸入政策変更対策）」が寄稿され、全原連と古紙センターがコラボしました。会報は年2回の発行で始まりました。新年号が2月、夏号が8月のスタイルが決まりました。

2021年の2月のNo. 3から栗原理事長の御指示で渉外広報委員会が編集を担当することになりました。私が委員長でしたので、編集長になりました。

定番の各単組理事長の新年のご挨拶を頂き、特集には「輸入古紙ゼロが中国製紙産業に与える影響と対策」という、要点そのものずばりのタイトルで中国の製紙専門誌の郭彩雲（グゥオ・ツァイユィン）氏の記事を転載させて頂きました。編集後記で会報に「リカパー通信」という愛称を名付けたいと書きました。英語で舌をかまないでも呼べる会報の略称を提案しました。日中古紙セミナーで中国の業界人に説明した、古紙はリカバードペーパーなのだ、を思い出したからです。

2021年5月に私は委員長を退任する予定でしたので、No.4号以降の「リカパー」の円滑な発行がとても気になりました。関東の様に地元での発行なら何とでも応用が効きますが、全国のコミュニケーション広場ならまとめ役が大切です。

そこで各地の組合による渉外広報委員の持ち回りで編集したら良いと考えました。お陰様で.No. 4の本田誠治編集長（中国商組）、No.5

の中村昌延編集長（近畿商組）、No.6 の上川原昭編集長（北海道商組）、No.7 の高橋宏明編集長（東京協組）が素晴らしい冊子に仕上げてくださいました。この No.8 号は静岡商組の石原純編集長の担当で発行されました。これからも各地の工夫でユニークな全原連会報となる「リカパー通信」が継続していくでしょう。今後とも毎号の編集長の企画が楽しみです。

全原連渉外広報委員会にご期待ください

16 年間の全原連理事の中で 5 期 10 年の間、渉外広報を担当し委員長としてやってこられたのは、事務局のサポートが万全だったからです。そしてメール文化と年 2 回の出会いや、最近の 3 年間では web 会議システムの活用によって、話し合える会議がタイムリーに出来たためです。各位のご協力に厚く感謝いたします。「リカパー通信」もさらに良い広報誌になるでしょう。

渉外広報委員長の大事な役割になったひとつが、古紙センターの「紙リサイクル作文・ポスターコンテスト」の審査員です。協賛者として全原連賞を提供していますので、その作品を決定する仕事を渉外広報委員長が行ってきました。膨大な応募作文が寄せられ、事前に絞られた作品から選ぶのですが、推薦根拠を審査会で述べる必要があり、かなりシビアな選考をしています。今後もやりがいのある、将来の日本に期待される、ステークホルダーとの交流・啓発が続きます。（まさに SDGs です。）

Web セミナーの手法も定着しました。渉外広報委員長の私の最後のミッションで、昨年 6 月 2 日古紙センターの「自治体廃棄物新人担当職員向け古紙セミナー」で第 1 回目の講師をして全原連らしいお願いの話が出来ました。今年は第 2 回目で斎藤委員長が講師でお話ししています。来年の 3 月末までいつでも古紙センターの HP で動画の視聴が可能です。（古紙センターと全原連のコラボを大事にしたく、これまでセンターの監事をお受けしており、これからもお役に立てれば幸いと思っています。）

栗原正雄理事長・旭日中綬章記念祝賀会での全原連執行部。関東商組の大久保理事長の采配で盛大に挙行された。2018 年（平成 30 年）10 月 20 日。製紙連合会、古紙センター、商社、業界紙、同会議員など全原連の関係各位が参集しました。

紙・パルプ・古紙の情報紙・誌がたくさんある様子は東京・新富町の古紙センター本部に各社から提供されているそれらの最新号が並ぶ書棚で知りました。まだまだ紙の文化は健在です。古紙はかけがえのないエッセンシャルリソースです。地域で共生と協業を組めば行政の信頼も相乗効果で増していきます。発生元も自社の都合だけで分断しにくくなり、さらには若い古紙の経営者が参加する機会が見つかればしめたものです。

全原連と渉外広報委員会の皆様のご活躍を願って回想を終えます。ご精読ありがとうございました。

（筆者の全原連履歴）
全原連理事　2006 年 5 月～ 2022 年 5 月の 16 年間。
全原連渉外広報委員長　2011 年～ 2021 年
（全原連渉外広報委員会メンバー）
北海道：上川原昭・東原正憲　東北：斎藤祐司・佐藤篤
関東：斎藤大介　東京協組：高橋宏明・宮内啓悟
静岡：市川智也・渡辺崇文・岩田浩輔・石原純
中部：服部茂樹・河村篤前　近畿：中村昌延・黒田祐史・傍島万記　中国：本田誠治・光井圭司　四国：石川義浩・島田健司　九州：坪井隆宗　の各位です。

2027 年の全原連 50 周年記念の事業の構想が始まる時は、渉外広報委員会の最大の出番がやってきそうです。
委員会メンバーの皆様の活躍の場が期待されます。
委員長期間を 10 年間も支えて頂き、感謝申し上げます。

本誌発行にあたり協賛いただいた各社へ厚く御礼申し上げます。
ご協力いただいた組合員の会社名を所属組合ごとに「協賛各社」としてご紹介させていただいています。

協 賛 各 社

【北海道製紙原料直納商業組合】

永大紙業 株式会社
栗原紙材 株式会社
三栄紙料 株式会社
有限会社 高潮産業
株式会社 長勢紙業
有限会社 丸昭上川原商店
株式会社 丸升増田本店
株式会社 もっかいトラスト

【東北製紙原料直納協同組合】

株式会社 ＳＫトレーディング
株式会社 高良
山形資源 株式会社
株式会社 山傳商店

【全原連 新潟ブロック】

有限会社 鈴木商店
株式会社 帆苅商店
有限会社 ヤマナリ猪又産業

【長野県製紙原料直納商組合】

天竜商事 有限会社
前田産業 株式会社

【東京都製紙原料協同組合】

株式会社 工藤商店
株式会社 丸十商店

【関東製紙原料直納商工組合】

株式会社 新井商店
新井紙材 株式会社
株式会社 市川商店
株式会社 今井
株式会社 ウェル
ウブカタ資源 株式会社
王子浮間古紙センター 株式会社
王子斎藤紙業 株式会社
株式会社 大久保
株式会社 梶谷商事
株式会社 金子商事
株式会社 金澤紙業
株式会社 木場リサイクル
株式会社 共益商会
株式会社 久米川紙業
栗原紙材 株式会社
株式会社 グリーン
株式会社 國光
株式会社 小池商店
株式会社 近藤商店
株式会社 佐久間
株式会社 斎藤英次商店
株式会社 齋藤商店
三弘紙業 株式会社
株式会社 下田商店
株式会社 須賀
株式会社 坪野谷紙業
東日紙商 株式会社
株式会社 富澤
合資会社 豊田八郎商店
永田紙業 株式会社
株式会社 ハイグレード
株式会社 パルコム
株式会社 ブシュー
株式会社 増田商店
株式会社 丸栄商店
株式会社 丸忠
皆川商事 株式会社
美濃紙業 株式会社
むさし野紙業 株式会社
株式会社 山室

【静岡県製紙原料商業組合】

株式会社 市川商店
株式会社 岩田商店
株式会社 開発紙業
株式会社 スギヤマ紙業
株式会社 鈴剛
松岡紙業 株式会社
株式会社 丸興佐野錦一商店
株式会社 丸元紙業

【中部製紙原料商工組合】

株式会社 石川マテリアル
一宮紙原料 株式会社
永井産業 株式会社
北勢商事 株式会社

【近畿製紙原料直納商工組合】

株式会社 アライの森
共栄紙業 株式会社
共和紙料 株式会社
日ノ出紙料 株式会社
前田紙業 株式会社
平成産業 株式会社
株式会社 福井商店
靖国紙料 株式会社
株式会社 吉田稔商店

【京都府紙料協同組合】

関西紙料 株式会社

【兵庫県製紙原料直納協同組合】

有限会社 仲商店

【中国地区製紙原料直納商工組合】

株式会社 磯野商店
株式会社 こっこー
玉川慶洙商店 株式会社
株式会社 樋口敦郎商店
福中商店 株式会社
株式会社 本田春荘商店
株式会社 丸総商店
株式会社 ミムラ
明和製紙原料 株式会社
安田金属 株式会社

【四国製紙原料商工組合】

伊予資源 株式会社
愛媛故繊維再生 株式会社

【九州製紙原料直納商工組合】

株式会社 荒川商店
株式会社 イワフチ
株式会社 九十九紙源センター
株式会社 坪井商店
株式会社 寺松商店
株式会社 松本紙店
有限会社 村岡儀一商店
有限会社 山下
ゆうび 株式会社
有価物回収協業組合石坂グループ
株式会社 リソースプラザ

富士市内岩本山から見下ろした富士市の工場群

POSTSCRIPT

今回、編集長を務めさせていただき、一冊の本ができる大変さを身をもって実感いたしました。編集の事前レクチャー・各所への調整等、大変力を貸して頂いた全原連事務局の中尾様ありがとうございました。

No 7号まで行われていた各単組紹介が一巡してしまい、企画に困ってしまった中、前渉外広報委員長の須長様に特集ページで「委員長退任までの回想」の寄稿文をいただけたことで、読み応えあるリカパー通信 No 8号が完成したと思います。

また、岡山での総会時と三重県桑名市での最終校正会議の2回、各単組の委員にお集まり頂き、顔を合わせて熱い編集会議ができました。画面越しでは分からない熱量、会議中のつぶやき等 ZOOM 開催にはない良さも改めて実感いたしました。

最終校正会議後には前委員長須長様の慰労懇親会も開催できました。本格的なコロナ明けを実感でき、大変うれしく思います。

No 8号の発行に関わってくださった皆様に感謝です。ありがとうございました！

第 8 号編集長　石原　純
（静岡商組　広報委員会委員）

■ 2024 年 2 月発行予定 NO.9 の編集長は東北製紙原料直納協同組合の齋藤裕司委員です。

INDONESIA KORINDO GROUP
インドネシアメーカーASPEX直系商社
三邦物産株式会社
SAMPO CORPORATION
〒104-0061
東京都中央区銀座2丁目11-8 ラウンドクロス銀座2丁目ビル13階
TEL：03-6261-0940(代) FAX：03-6261-0941

▪リサイクル関連機器メーカー
渡辺鉄工株式會社
代表取締役社長 渡辺 雅之
本社 〒830-0841
福岡県久留米市御井旗崎2丁目25番25号
TEL 0942-43-9111/FAX 0942-43-7521

tam 東京自働機械
処理スピードと独自のアイドリングストップで、消費電力を極限まで削減!!
省エネNo.1ベーラー誕生!

ダブルエコ スピード×省エネ
Weco
TAMベーリングシステムRSEシリーズ
お問合せ
株式会社 東京自働機械製作所
〒101-0032 東京都千代田区岩本町3丁目10番7号（東自機ビル）
URL: http://www.tam-tokyo.co.jp
工場／〒277-0885 千葉県柏市西原7-3-1
TEL 04(7152)2282
Mail balersystem@tam-tokyo.co.jp

ベーラー番線
最良の品質・防錆OK
ートラブル、ロスが少ないー
50K・100K・500K・1000K
坂野興業株式会社
東京本社 TEL03—3718—7311 FAX03—3724—8170
浦安営業所 TEL0473—54—6531 FAX0473—51—5201
静岡営業所 TEL054—624—1101 FAX054—624—6704

link
リンク コーポレーション グループ
古着の貿易のことなら…
㈱エバーアドバンス
茨城本社/TEL.0297-21-3325
東京事務所/TEL.03-6260-8161
九州工場/TEL.0949-52-8900
（関連会社）

WorkVision
Creating Value for The Future
お問い合わせ先
ビジネスソリューション営業第一部
営業担当：柿崎 貴信
TEL：03-4233-0945 FAX：03-5463-1138
＊旧社名 東芝ソリューション販売株式会社
2019年7月1日より社名変更となりました。
システムは「所有」から「利用」へ！
リサイクルシステム
クラウド版リリース
シンプルで即戦力！
セキュリティと災害に強い！
サーバ購入・管理不要！

≪ 広告募集 ≫
— 問い合わせ先 —
全国製紙原料商工組合連合会
事務局
電話 03-3833-4105
JRPA

すべての組合員のゼロ災の達成を目指す目標

令和5年度

SAFETY DEVELOPMENT GOALS

全国製紙原料商工組合連合会